地域研究コンソーシアム(JCAS)　2017年度次世代ワークショップ企画スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究枠

内陸の＜水―人＞関係再考―河川湖沼と人間の相互関係から新たなユーラシア地域研究枠組みを探る

WS企画趣旨

冬季に海岸部が凍結するスラブ・ユーラシア地域の歴史において、内陸河川・湖沼のもたらす水産資源や交通手段は、人々の食生活や経済活動を支えるだけでなく、政治・外交にも大きな役割を果たしてきた。現在、気候変動は北極海だけでなく、内水面域の環境や政治・経済的価値に影響を与え、その役割を変容させつつある。本WSは、このように歴史的に重要な役割を果たしてきた内水面と人間社会の相互関係への理解を深めることを目的とする。

それにあたって、内水面域の水と人の関係を右図のように「歴史＋環境（広い意味での）」といった枠組みで考察する。これによって、ユーラシア地域研究に対してどんな新しい分析視角が出せるのかについても考えたい。

しかし、「ユーラシア地域」という空間的まとまりにおける自然環境は多様である。それでも「社会主義経験した地域およびその周辺」等の点で、環境思想・政策に関して何らかの共通点があると考える。このような視点からこの地域の人々が作り出してきた環境思想・環境認識の一側面を照射することができると考え、本WSを企画した。

そして将来的には、対象地域を広げ、分野横断的共同研究へ発展させる。気候変動の影響において最も問題となってくる＜水―人＞関係の全体像を解明することを目指す。

WSの構想

従来のスラブ・ユーラシア地域研究→歴史学的分析枠組
帝国と周辺、ポスト社会主義、地域認識・表象、境界・境域、中域圏など…

環境への視点・地域横断的視点：
「アフロ・ユーラシア内陸乾燥地」[嶋田 2005]、「アフリカ漁撈民の世界」[中村・稲井 2015]「環境と歴史学」[水島 2016]等から着想。

本企画の目的：
ユーラシア内水面域と人の相互関係の再評価
先行研究の歴史学的視点を踏まえつつ、内水面域の地理、生態、環境への視点を加え、水産・水資源利用、環境保全、政治・経済、ボーダーマネージメント、交通、社会関係等の事例からユーラシア的特徴を明らかにする。

論点：
「大陸内水面の越境性・境界性」→社会・環境形成過程
「淡水産資源と内陸資源との補完性」→生業複合過程
「ミクロな社会とマクロな政治経済」→ミクロ―マクロ接合

地域研究コンソーシアム(JCAS)　2017年度次世代ワークショップ企画スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究枠

内陸の＜水―人＞関係再考―河川湖沼と人間の相互関係から新たなユーラシア地域研究枠組みを探る

日時：2018年1月7日（日）13:00～19:00
場所：東北大学川内キャンパス　川北合同研究棟4F　436室

主催：地域研究コンソーシアム(JCAS)
　　北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
共催：東北大学東北アジア研究センター
　　「東北アジア地域の環境・資源に関する研究連携ユニット」
企画責任者：大石侑香

WS参加者：
報告者・コメンテーター9名
アドヴァイザー　高倉浩樹教授（東北大学）
傍聴者24名

報告：
セッション1では、農耕や牧畜を主とする内陸地域における漁業の柔軟な機能に注目し、井上は乾燥地域から、阿部は湿潤地域から社会・環境変化に対するミクロ適応を論じた。
セッション2では、国境や民族を越えるという河川・湖の特徴に注目し、人々と国家・企業等との間のポリティクスについて議論した。地田はアラル海漁業のスケールの政治、左近は国際河川をめぐる国家間関係、Byambajavは地下資源開発による河川汚染問題を検証した。
セッション3では、地理的境界である河川と小規模集団内外の社会関係に注目し、大石は漁撈技術の変化による社会関係等の変化、杉本はルーマニア農村の谷川とコミュニティ・アイデンティティの関係を論じた。
総合討論では、近藤がアラスカ・人類学研究、伊藤がアフリカ・地理学研究の視点からコメントし、ユーラシア内水面域の諸特徴を抽出した。

プログラム：
趣旨説明　大石侑香（日本学術振興会・東北大学）

Sess.1　内水面漁業と社会・環境適応
井上岳彦（日本学術振興会・東北大学）
「漁撈は牧畜民を救う：1920年代カルムィク草原の大飢饉」
阿部朋恒（首都大学東京大学院）
「山の民の食卓：中国雲南省ハニ族の棚田における水田漁撈と水生生物利用」

Sess.2　越境する内水面域のポリティクス
地田徹朗（名古屋外国語大学）
「災害復興と小アラル海漁業の持続可能性」
左近幸村（新潟大学）
「第一次世界大戦へ流れる川：ドナウ川とロシア帝国」
Dalaibuyan Byambajav（日本学術振興会・東北大学）
“Mining and impacts on Mongolian rivers: socio-cultural dimensions”

Sess.3　内陸河川がつなぐ／わける社会
大石侑香
「モーターボート・レボリューション：西シベリア・ハンティの川筋集団と協働実践の変容」
杉本　敦（国立民族学博物館）
「トランシルヴァニア山村における谷川とコミュニティの形成」

総合討論
コメント：伊藤千尋（広島女学院大学）：アフリカ・地理学より
　　近藤祉秋（北海道大学）：アラスカ・人類学より